

CASBEE とっとり

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 新案 (第6版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCh_2008(v.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	あけぼの幼稚園	階数	地上2F	
建設地	鳥取県米子市善方町4番1号	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年6月15日	
敷地面積	3,853 m ²	作成者	定森淳一	
建築面積	1,814 m ²	確認日	2012年5月16日	
延床面積	2,575 m ²	確認者	坂東 正	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	2階建の低層で空地・緑地を確保し温暖化対策を行なうとともに、敷地外への環境配慮に努めている。また、効率性のよい断熱材・設備機器の採用で建物の環境負荷低減を図っている。	その他 (注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	採光利用は開口率が大きくトップライトも採用し、グレア対策も効果が果たしている。有効開口面積が大きく自然換気性能に寄与している。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	バリアフリーは基準を満たし、空調・給排水配管の耐用年数に配慮している。空調・換気の信頼性を高める対策を行っている。	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー	断熱性能の良い断熱材と、高効率の設備機器を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用し節水に努めている。建物の構造はS造+外壁ALC版、外断熱材の採用で部材の再利用性向上を図っている。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	燃焼機器を用いず大気汚染防止に寄与し、光害が敷地外に漏れないよう配慮している。	

重点項目	得点	取組み度
県産材利用の推進	6点 / 15点	
鳥取県認定グリーン商品利用の推進	5点 / 25点	
自然エネルギー変換利用の推進	点 / 25点	
敷地内緑化の推進	点 / 25点	
合計	11点 / 90点	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される